

**厚生労働科学研究費補助金**

**厚生労働科学特別研究事業**

**持続可能なへき地等における  
保健医療を実現する方策に関する研究**

**平成16年度 総括研究報告書**

**主任研究者 鈴川正之 自治医科大学 救急医学教授**

**平成16（2004）年3月**

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
総括研究報告書

持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究

主任研究者 鈴木 正之 自治医科大学 救急医学教授

研究要旨

へき地・離島において提供されている保健、医療および福祉の現状を把握し、併せて全国のへき地・離島で普遍的に提供すべき医療内容を確定するために、自治体担当者、へき地診療所長、診療所医師、へき地支援拠点病院の担当者に対し、アンケート調査を行なった。これにより、へき地・離島において提供されるべき保健、医療および福祉の内容を把握する。

A. 研究目的

へき地・離島の医療は、気象条件にも厳しく、人的・物的資源にも乏しく、高次医療機関への搬送も困難であり、また最新の医療情報を研修する機会にも乏しい。そのため、医師の視点から見ると、現地へ赴任することをためらう要素が多数あり、これがさらに医療資源の確保を難しくして悪循環を形成しており、へき地保健医療対策が進められてきた現在でもへき地・離島医療は十分に確保されているとは言いがたい。

そのため、へき地・離島における保健、医療および福祉の提供の現状を把握し、へき地医療の支援体制で優れたモデルを抽出する。併せて、提供すべき医療内容を確定し、今後の医師の研修や、住民の理解を得る上での基礎となるデータを収集するための調査を行うことを目的とする。

B. 研究方法

へき地・離島における保健医療提供状況調査として、自治体担当者、へき地診療所長、診療所医師、拠点病院等の担当者を対象としたアンケート調査を実施する。また、無医地区の状況、へき地・離島における保健、医療および福祉の内容、へき地・離島における保健、医療および福祉の提供に対する支援の状況などについて調査を行う。さらにへき地・離島の

医療に関する問題点および取り組むべき課題についても明らかにする。

調査対象は、へき地診療所と指定されている診療所および国保診療所に加えて、いわゆる無医地区に設置されている診療所、離島振興法・沖縄振興特別措置法・奄美群島振興特別措置法・小笠原諸島振興開発特別措置法で指定されている離島に設置されている診療所とした。

これを通して、へき地・離島において提供されるべき保健、医療および福祉の内容を把握する。

C. 研究結果

本研究班は、特別研究事業としてアンケート調査の内容の検討と、アンケート調査を実施した。アンケート調査の内容については、へき地・離島において提供されるべき医療・福祉の内容を確定するための項目を網羅した。

1. へき地診療所へのアンケート

（診療所長あて）

第9次のアンケートと比較して、過疎・山村などの法律の適用状況、へき地診療所と指定されているかの項目を加え、「診療圏」という言葉を、「その診療所で実際に医療を提供している地域および受診している住民が居住する範囲」と規定してわかりやすく表示した。

診療所の一般的な情報については、設

置主体をさらに細かく分類した、開設診療科名を増やした、有床、無床を確認する項目を入れた、職員の構成を詳しく聞くようにした、同じ診療圏で完結できているかどうかを聞くために他の医療機関の情報を聞くようにした、診療所を支援する後方病院までの距離、時間、搬送手段を具体的に聞くようにした、などの内容が今回新しく加えた項目であり、いずれもへき地・離島の診療所のへき地の内容を具体的に把握することを目的としている。

へき地医療拠点病院に関する質問では、拠点病院が果たしている機能についてその項目だけでなく、それが十分行われているかを聞くこととした。また、拠点病院がもつべき機能について、前回と質問の仕方を変えて、3つまで選んだ中で、もっとも重要なものを選んでもらって統計的に重要性がわかるように工夫した。

へき地医療支援機構は、第9次の目玉であるが、診療所長がそれを把握しているか、情報伝達があるか、満足するものであるかなど、支援機構の機能に関するアンケートを新たに加えた。

救急搬送については、第9次の際に聞いたものの他に、高齢者の呼吸困難などの診断がはっきりつかない症例を加えて、より現実的なものとした。またヘリコプター搬送については、帰路の搬送手段も含めて質問し、へき地・離島の問題点がはっきり出るようにした。

次に、現在の医療状況について、生活習慣病、癌検診、心疾患、脳血管疾患、外科、整形外科の疾患、小児科、産科疾患、耳鼻科、眼科疾患、皮膚科、歯科疾患や各種検査まで、98項目に渡って、質問を作成した。内容的には一つ一つの疾患の

診断や治療、検査について、現在その診療所で対応が可能か、そうでなくても診療圏内では対応が可能か（へき地・離島ではひとつの診療所ですべての疾患をカバーする必要があるかどうかを見極めるための質問）、不可能であるか、また理想的にはどうあるべきかを質問した。これは、今までの研究でへき地・離島で一人診療をするのに必要な項目をまとめたものを参考に、今後のへき地・離島診療所のあるべき医療の内容を探るための質問である。さらに、現実に対応が不可能である場合、その理由を質問した。

さらに、臨床研修必修化に伴い、どのようなメリットがあるか、また現在までの受入数を尋ねることとした。

無医地区に関するアンケートは前回と同様あり、介護サービスについては、介護保健サービスの内容に則して質問の表題を変更した。初期救急・プライマリケアについての質問は前回と同様である。

## 2. へき地診療所へのアンケート

(すべての医師・歯科医師あて)

一般的な質問では、へき地診療所にいる医師の持っている専門医の内容を聞く項目を新たに追加した。そのかわり、どのような専門医に支援を頼みたいかについては、定期的に診療を希望する科と含めて、診療所長あての質問に組み込んで削除した。情報やインターネット、遠隔医療に関する質問は前回と大きな違いはないものとした。研修や研究に関する質問も同様である。

へき地・離島医療で求められる内容を取りまとめる、へき地・離島医療マニュアルが必要かどうかを問う項目を新たに加え、へき地・離島でどこまでの医療

を行うべきかを明らかにして、効率のよい医療を行う基準を作ることが有用かどうかを聞くこととした。

また臨床研修の必修化が、与える影響についての質問を新たに加え、保険・福祉業務、行政との関係に付いては、第9次のアンケートをほぼ踏襲した。

生活状況の質問は、前回よりも簡素化し、へき地で困っていること、へき地勤務を続けるための支援として重要なもの、へき地勤務をしている理由、またいつまで続けるつもりなのかについては、前回よりも少し詳しく質問して解析を行うこととした。

### 3. へき地医療拠点病院へのアンケート

前回までは、中核病院、支援病院へのアンケートであったが、内容的には大きな変更はしていない。ただ、へき地支援機構ができたことによる新たな項目をいくつか付け加えて、支援機構がどのように動いているのかを、見ることにした。

### 4. 都道府県、市町村に対するアンケート

第9次と比較して大きな変更はないものの、受療行動の分析をどのように行っているか、市町村合併でどのような影響があると考えているか、へき地支援機構と市町村との連携がうまく取れているか、へき地支援機構がきちんと運営されているかどうかといったところを、新たな項目として付け加えた。

このような内容でアンケートを確定し、第10次へき地保険医療対策検討会でも資料として提出し検討された。(資料1、アンケート4部構成)

そして平成17年3月15日付で8260箇所(暫定数)へ配布し、へき地・離島において提供されるべき医療・福祉の内容などについて調査を行った。

アンケート配布先の全体数を資料2に示す。今回はできるだけ多くの診療所をカバーすることを目標としており、ただ単にへき地診療所の名称があるところだけでなく、実態としてへき地にある診療所をできるだけカバーして、有効なアンケート調査とすることを目指しているため、配布数がかなり多いものとなった。

### D. 考察

今回は、今まで行なわれていたへき地・離島の医療に対する調査の項目に加えて、へき地・離島の医療において提供すべきと思われる保健医療の内容や、実際の医療における問題点や課題について、調査を行なった。

### E. 結論

へき地・離島において提供されるべき医療、福祉の内容を確定するためのアンケートを作成した。次年度においてこれを解析し、現地調査も踏まえて、マニュアルなどの作成を行う。

### F. 健康危険情報

なし。

### G. 研究発表

調査解析後、適切な手段で発表を予定している。

### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

## へき地診療所へのアンケート(診療所長あて)

- A. 都道府県名： \_\_\_\_\_ B. 診療所名： \_\_\_\_\_  
 C. 記入者名： \_\_\_\_\_ D. 役職名： \_\_\_\_\_ E. 年齢： \_\_\_\_\_ 歳  
 E. へき地医療の経験年数： \_\_\_\_\_ 年 F. 現在の施設での勤続年数： \_\_\_\_\_ 年  
 G. 出身大学名： \_\_\_\_\_ H. 卒後： \_\_\_\_\_ 年
- I. 貴診療所が設置されている地域の法律適用状況  
 1. 過疎 2. 山村 3. 豪雪 4. 特豪  
 5. 離島 6. 沖縄 7. 奄美 8. 適用外
- J. 貴診療所はへき地診療所ですか。 1. はい 2. いいえ

※ このアンケートの文章内の「診療圏」とは、貴診療所で実際に医療を提供している地域及び受診している住民が居住する範囲を指します。そのようにご理解の上、ご回答ください。

問1 診療所に関する基本情報をご回答ください(判る範囲で記入してください)。

- 1) 診療所の診療圏の対象人口 推定 \_\_\_\_\_人
- 2) 貴診療所の設置主体は下記のどれですか。  
 1. 都道府県立 2. 市町村立 3. 公的 (日赤、済生会、厚生連、北社協)  
 4. 国保Ⅰ種 5. 国保Ⅱ種 6. 医療法人 7. 公益法人 8. 個人  
 9. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- 3) 診療している診療科をお答えください(複数回答可)。  
 1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産婦人科 6. 脳神経外科 7. 眼科  
 8. 耳鼻いんこう科 9. 歯科  
 10. その他 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ )
- 4) 貴診療所の病床数をお答えください。  
 1. 無床  
 2. 有床 ( \_\_\_\_\_ ) 床
- 5) 実診療日(外来)は1週間のうち何日ですか  
 \_\_\_\_\_日  
 診療時間帯をご記入ください \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分～ \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分
- 6) 休日の診療体制をお答えください。  
 1. 自宅に直接電話等で連絡してもらう  
 2. 診療所の転送電話で自宅や携帯電話に連絡してもらう  
 3. 休日の輪番制で対応をしている  
 4. その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 5. 特に診療体制はない

7) 平日の時間外の診療体制はどうなっていますか。

1. 自宅に直接電話等で連絡してもらう
2. 診療所の転送電話で自宅や携帯電話に連絡してもらう
3. 夜間の輪番制で対応をしている
4. その他 ( )
5. 特に診療体制はない

8) 職員の構成

常勤医師：	_____名	非常勤医師：	_____名
常勤歯科医師：	_____名	非常勤歯科医師：	_____名
常勤看護師：	_____名	非常勤看護師：	_____名
常勤保健師：	_____名	非常勤保健師：	_____名
常勤歯科衛生士：	_____名	非常勤歯科衛生士：	_____名
常勤放射線技師：	_____名	非常勤放射線技師：	_____名
常勤検査技師：	_____名	非常勤検査技師：	_____名
常勤栄養士：	_____名	非常勤栄養士：	_____名
常勤事務職員：	_____名	非常勤事務職員：	_____名
常勤( )：	_____名	非常勤( )：	_____名
常勤( )：	_____名	非常勤( )：	_____名
常勤( )：	_____名	非常勤( )：	_____名

9) 診療所の平均的な1日外来患者数、及び月当たり時間外患者数は何名ですか。

1日平均患者数： \_\_\_\_\_名 時間外患者数 月： \_\_\_\_\_名

10) 同じ診療圏内には貴診療所の他にいくつの医療機関がありますか。

\_\_\_\_\_施設

11) 同じ診療圏内にある医療機関の診療科は下記のうちどれですか（複数回答可）。

複数の医療機関が存在する場合は、全ての診療科目をご記入ください。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産婦人科 6. 脳神経外科 7. 眼科
8. 耳鼻いんこう科 9. 歯科
10. その他 ( ) ( ) ( )

12) 一番近くにある貴診療所を支援する病院の診療科は下記のうちどれですか（複数回答可）。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産婦人科 6. 脳神経外科 7. 眼科
8. 耳鼻いんこう科 9. 歯科
10. その他 ( ) ( ) ( )

その病院までの移動距離、所要時間、搬送手段をご記入ください。

( ) km ( ) 分 ( )

13) 各医療機関間の連携において行われていることをご記入ください（複数回答可）。

1. 研修会の開催 2. 救急輪番制への参加 3. 休診時のバックアップ
4. その他 ( )

【へき地医療拠点病院】

問2 貴診療所を支援しているへき地医療拠点病院はありますか。

1. ない 2. ある (病院名: )  
3. 上記以外の支援してくれる病院がある

問3 問2で「2. ある」と回答された方にお聞きします。その病院がへき地医療拠点病院として下記の1.～11.のうち果たしている機能について記号に○をつけ、さらにその働きの効果についてお書きください。

- |                 |        |       |      |       |
|-----------------|--------|-------|------|-------|
| 1. 非常勤医師の定期派遣   | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 2. 非常勤医師の随時派遣   | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 3. 代診医の派遣       | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 4. 長期の代診(産休、療養) | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 5. コメディカルの派遣    | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 6. へき地巡回診療      | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 7. 研修の受け入れ      | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 8. 画像伝送等の遠隔医療   | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 9. 定期的な症例検討会    | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 10. 紹介患者の受入れ調整  | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 11. 総合的な臨床医の育成  | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| 12. その他( )      | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |

問4 診療所にとってへき地医療拠点病院が持つべき機能を3つ選んで○をつけ、その3つのうちもっとも重要と思われるものには◎をつけてください。

- |               |                |                |                 |
|---------------|----------------|----------------|-----------------|
| 1. 非常勤医師の定期派遣 | 2. 非常勤医師の随時派遣  | 3. 代診医の派遣      | 4. 長期の代診(産休、療養) |
| 5. コメディカルの派遣  | 6. へき地巡回診療     | 7. 研修の受け入れ     | 8. 画像伝送等の遠隔医療   |
| 9. 定期的な症例検討会  | 10. 紹介患者の受入れ調整 | 11. 総合的な臨床医の育成 |                 |
| 12. その他( )    |                |                |                 |

【へき地医療支援機構】

問5 へき地医療支援機構(以下、「機構」といいます。)が設置されましたが、機構が貴都道府県のどこに設置されているかご存知ですか。

1. はい 2. いいえ

問6 機構の機能として代診医の派遣や研修会の開催などがありますが、利用したことがありますか。

1. 代診医師の派遣を受けたことがある 2. 研修会に参加したことがある  
3. その他の機能を利用した( ) 4. 利用したことはない

問7 機構から貴診療所に何か情報が送られてきたことがありますか。

1. はい 2. いいえ

問8 貴診療所の運営にとって機構の機能は満足のものですか。

1. はい 2. いいえ

問9 機構が円滑に活動するための障害にはどのようなものがあると思われますか。

[ ]

【救急搬送】

問10 以下の救急事例が貴診療所を受診し、貴診療所を支援する病院への搬送が必要と判断された場合、必要となる搬送時間および年間の搬送実績をお答えください。また、搬送が必要であったが、荒天などで搬送ができなかった件数もお答えください。

	所要搬送時間	年間搬送実績	搬送不能件数
1) 脳卒中などの脳血管障害	( )分	( )件	( )件
2) 急性心筋梗塞などの心疾患	( )分	( )件	( )件
3) 緊急手術が必要な外傷患者	( )分	( )件	( )件
4) 専門的な判断が必要な小児救急	( )分	( )件	( )件
5) 専門的な判断が必要な産科救急	( )分	( )件	( )件
6) 高齢者の呼吸困難、腹痛など 診断がはっきりつかない患者	( )分	( )件	( )件

問11 緊急搬送の際、ヘリコプター搬送(航空機搬送を含む)を活用したことがありますか。年間の利用回数、そのうち診療所医師が同乗した回数、搬送にかかる時間、搬送後の医師の帰路の交通手段、診療所医師が同乗する際の問題点についてお答えください。

1) ヘリコプター搬送(航空機搬送を含む)：年間( )回  
うち診療所医師が同乗した回数 ( )回

2) ヘリコプター搬送(航空機搬送を含む)にかかる標準的な時間  
搬送を依頼してヘリに乗るまで 昼( )分 夜( )分  
ヘリによる搬送時間 昼( )分 夜( )分  
ヘリ到着後、搬送先到着まで 昼( )分 夜( )分

3) 医師の帰路の交通手段 1. ヘリコプター  
2. 公的交通手段  
3. その他 ( )

4) 医師同乗の問題点 (複数回答可) 1. その間診療所に医師がいなくなること  
2. 帰りの交通手段  
3. その他 ( )

【現在の医療内容と望ましい対応】

問 12 貴診療圏の医療状況についてお聞きします。次の診療行為等について、貴診療所での現在の対応と、へき地医療で望ましいと思われる対応についてお答えください。

	1) 現在の対応についてお聞きします。			2) 理想的にはどう考えられますか。(現在の状況に関わらずお答えください)		
	①診療所 で対応可能である	②診療圏内 で対応は可能である	③診療圏内 で対応は不可能である	①診療所 で対応すべきである	②診療圏内 で対応すべきである	③診療圏内 で対応する必要はない
《診療・管理》						
1. 生活習慣病の管理 (糖尿病・高脂血症・高血圧)	①	②	③	①	②	③
2. 糖尿病のインスリン導入	①	②	③	①	②	③
3. 基本健康診査	①	②	③	①	②	③
4. 健康相談・健康教室	①	②	③	①	②	③
5. 健康診断	①	②	③	①	②	③
6. 予防接種	①	②	③	①	②	③
7. 乳幼児健診	①	②	③	①	②	③
8. 学校医・園医	①	②	③	①	②	③
9. 往診・在宅医療	①	②	③	①	②	③
10. 介護保険意見書の提出	①	②	③	①	②	③
11. 訪問看護	①	②	③	①	②	③
12. 栄養指導	①	②	③	①	②	③
13. 生活指導(運動指導を含む)	①	②	③	①	②	③
14. 老人保健施設等の管理・嘱託医	①	②	③	①	②	③
15. 産業保健	①	②	③	①	②	③
《がんの診療》						
16. 胃がん健診(上部消化管造影)	①	②	③	①	②	③
17. 胃がん二次検診 (胃ファイバースコープ)	①	②	③	①	②	③
18. 胃がんの手術	①	②	③	①	②	③
19. 肺がん健診(胸部エックス線)	①	②	③	①	②	③
20. 肺がん二次検診 (気管支ファイバースコープ)	①	②	③	①	②	③
21. 肺がんの手術	①	②	③	①	②	③
22. 大腸がん健診(便潜血検査)	①	②	③	①	②	③
23. 大腸がん二次検診 (大腸ファイバースコープ)	①	②	③	①	②	③
24. 大腸がんの手術	①	②	③	①	②	③
25. 乳がん健診 (マンモグラフィ)	①	②	③	①	②	③
26. 乳がんの二次検診(生検)	①	②	③	①	②	③
27. 乳がんの手術	①	②	③	①	②	③
28. がんの化学療法(各種)	①	②	③	①	②	③
29. 術後の外来経過観察	①	②	③	①	②	③
《心疾患》						
30. 虚血性心疾患の心電図等による診断	①	②	③	①	②	③
31. 虚血性心疾患に対する血管造影検査	①	②	③	①	②	③
32. 急性心筋梗塞に対する心臓カテーテルを用いた治療	①	②	③	①	②	③

33. 心筋梗塞治療後(退院後)の 外来通院と薬物治療	①	②	③	①	②	③
34. 不整脈の診断 (ホルター心電図を含む)	①	②	③	①	②	③
《脳血管疾患》						
35. 脳血管障害の頭部CTスキャン による診断	①	②	③	①	②	③
36. 脳出血の開頭血腫除去手術	①	②	③	①	②	③
37. 脳血管障害による片麻痺 (半身不随)に対するリハビリ	①	②	③	①	②	③
38. リハビリ後、後遺症を残した状 態での在宅医療と介護支援	①	②	③	①	②	③
《外科疾患》						
39. 急性虫垂炎の診断	①	②	③	①	②	③
40. 急性虫垂炎の外科的治療	①	②	③	①	②	③
41. 急性胆のう炎の診断	①	②	③	①	②	③
42. 急性胆のう炎の外科的治療	①	②	③	①	②	③
43. 急性膵炎の診断	①	②	③	①	②	③
44. 急性膵炎の外科的治療	①	②	③	①	②	③
《整形外科疾患》						
45. 腰痛症・肩関節周囲炎に 対するトリガーポイント注射	①	②	③	①	②	③
46. 膝関節腔への薬剤注入	①	②	③	①	②	③
47. 骨盤牽引・脊椎牽引	①	②	③	①	②	③
48. 温熱療法	①	②	③	①	②	③
《外傷・救急疾患》						
49. 四肢外傷の初期治療 (骨折を除く)	①	②	③	①	②	③
50. 骨折患者の初期治療	①	②	③	①	②	③
51. 骨折(閉鎖性)に対する観血的整 復固定術	①	②	③	①	②	③
52. 骨折整復術後のリハビリ	①	②	③	①	②	③
53. 外傷性腹腔内出血の初期治療 (気道管理、輸液、診断等)	①	②	③	①	②	③
54. 腹腔内出血に対する開腹手術	①	②	③	①	②	③
55. 到着時心肺停止症例(CPAO A)に対する心肺蘇生	①	②	③	①	②	③
56. カウンターショック	①	②	③	①	②	③
57. 一般住民に対するBLS指導	①	②	③	①	②	③
58. 神経ブロック (星状神経節・硬膜外)	①	②	③	①	②	③
《小児の疾患》						
59. 小児(幼児以上)の診察	①	②	③	①	②	③
60. 新生児・乳児の診察	①	②	③	①	②	③
61. 小児の採血・輸液	①	②	③	①	②	③
62. 小児の肺炎の治療	①	②	③	①	②	③
63. 小児の喘息の治療	①	②	③	①	②	③
《産科》						
64. 妊婦健診	①	②	③	①	②	③
65. 正常分娩の介助	①	②	③	①	②	③
66. 帝王切開術	①	②	③	①	②	③
《眼科疾患》				①	②	③
67. 白内障の薬物療法	①	②	③	①	②	③
68. 白内障の手術的治療 (眼内レンズ挿入を含む)	①	②	③	①	②	③



- |                |        |      |        |      |      |
|----------------|--------|------|--------|------|------|
| 8. 放射線科        | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 9. 泌尿器科        | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 10. 精神科        | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 11. 産婦人科       | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 12. 麻酔科        | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 13. リハビリテーション科 | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 14. 呼吸器内科      | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 15. 神経内科       | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 16. アルザ-膠原病科   | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 17. 循環器科       | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 18. 歯科         | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 19. その他( )     | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 20. その他( )     | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |
| 21. その他( )     | ①週2～3回 | ②週1回 | ③月2～3回 | ④月1回 | ⑤年数回 |

**【臨床研修】**

問 15 平成 16 年度から医師の臨床研修が必修化されましたが、貴診療所ではこれまで医師の卒後臨床研修を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ( )名/年 ( )日間
2. いいえ

問 16 研修医の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われませんか。

1. はい 具体的なメリットをお書きください(複数回答可)。
  - ①診療所勤務医師の研鑽
  - ②診療所スタッフの研鑽
  - ③診療所業務の活性化
  - ④へき地医療に対する理解の促進
  - ⑤その他( )
2. いいえ

問 17 これからの卒後臨床研修における研修医の受け入れについて希望しますか。また、その理由もお答えください。

1. はい
  2. いいえ
- その理由( )

**【無医地区】**

問 18 貴診療所の診療圏に無医地区に該当する地区(無医地区に準ずる地区を含む)はありますか。

1. はい
2. いいえ

問 19 貴診療所の診療圏に無歯科医地区に該当する地区(無歯科医地区に準ずる地区を含む)はありますか。

1. はい
2. いいえ



## へき地診療所へのアンケート(全ての医師・歯科医師あて)

(へき地診療所に勤務する全ての医師・歯科医師が記入してください)

- A 都道府県名：\_\_\_\_\_ B 診療所名：\_\_\_\_\_
- C 記入者名：\_\_\_\_\_ D 役職名：\_\_\_\_\_ E 年齢：\_\_歳
- F へき地医療の経験年数：\_\_年 G 現在の施設での勤続年数：\_\_年
- H 出身大学名：\_\_\_\_\_ I 卒後：\_\_年
- J お持ちの免許：1. 医師 2. 歯科医師 3. 医師および歯科医師
- H 勤務形態：1. へき地診療所の専任(複数のへき地診療所を兼任している場合を含む) 2. 派遣元医療施設との兼任

## 【専門医資格】

問1 お持ちの専門医資格をお答えください。

1. 現在、持っている  
具体的にお答えください(複数回答可) ( ) ( ) ( )
2. 持っていない
3. 以前は持っていたが、失効した  
具体的にお答えください(複数回答可) ( ) ( ) ( )

## 【情報収集・相談】

問2 日常の診療所活動の中で診断や治療方針の決定に苦慮する場合、どのように対応していますか。(複数回答可)

1. 文献等による事例を参考 2. 電話で専門医に相談
3. テレビ電話で専門医に相談 4. ファックスで専門医に相談
5. インターネット(電子メールを含む)で専門医に相談
6. 遠隔医療により専門医にコンサルト 7. 専門医に患者を紹介する
8. その他 ( )

## 【インターネット】

問3 インターネットが接続可能なパソコン等を有していますか。

1. 保有している 2. 保有していない

問3-1 保有している場合、接続環境はどれですか。

1. 電話回線 2. ISDN 3. ADSL 4. 光ファイバー 5. ケーブルテレビ

## 【遠隔医療】

問4 遠隔医療についてお答えください。

1. 遠隔医療を利用している 2. 遠隔医療が必要だと思うが、利用したことはない 3. 遠隔医療は特に必要ない
4. その他 ( )

問5 問4で1. 遠隔医療を利用している と答えた場合、利用している遠隔医療の内容をお答えください(複数回答可)。

1. 病理組織、レントゲン写真等の静止画像による診断 2. 血管造影等の動画による診断
3. テレビ電話による診断、治療 4. 電子メールを利用した症例検討、症例相談
5. 在宅患者のモニター 6. テレビ会議等による学会、研究会、講演会への参加
7. 他院の電子カルテの閲覧、他院への紹介状
8. その他 ( )

問7 遠隔医療を推進する上での課題についてお答えください(複数回答可)。

1. ハード、ソフト等の設備費が高価である
2. 医療機器とパソコンを接続するインターフェースが整っていない
3. 通信費等の維持費が高い
4. 操作が困難である、面倒くさい
5. 通信等の処理速度が遅い
6. システムが現場のニーズに合っていない
7. 相談を受けてくれる専門医師の確保
8. 相談を受けてくれる専門医師の技術
9. その他 ( )

問8 今後、どのような遠隔医療のシステムを希望していますか

[ ]

**【研修・研究】**

問9 研修・研究についておたずねします。計画的に研修、研究日を設け実施していますか。

1. 実施している
2. 実施していない

問10 学会・研修会等による短期の出張の場合どのように対処されていますか。

1. 休診にする
2. 代診医を要請し、確保している
3. 代診医を要請するが、確保できない
4. 診療日の変更など臨機応変に対処している
5. 診療所の他の医師が対応する
5. その他 ( )

**【へき地・離島医療マニュアル】**

問11 全国のへき地・離島医療の充実のために、へき地・離島で求められる内容を取りまとめ、多くの分野からの医師がへき地・離島医療を担いやすくするために、「へき地・離島医療マニュアル(仮称)」を取りまとめる必要があると考えられますか。

1. 必要である
2. ある程度必要である
3. あまり必要ではない
4. まったく必要でない

そのように考えられる理由をお聞かせください

[ ]

問12 「へき地・離島医療マニュアル(仮称)」を取りまとめた場合、へき地・離島で求められる医療内容を踏まえて、拠点病院への患者の搬送基準が明確となる等、へき地・離島での診療の範囲が明確になると思われますか。

1. なる
2. かなりなる
3. ならない

そのように考えられる理由をお聞かせください

[ ]

**【臨床研修】**

問 13 平成 16 年度から行われた医師の臨床研修の必修化により、へき地医療に対してどのような効果があると考えられますか。

1. へき地医療を志望する医師の増加
2. へき地医療に従事する専門医の数の増加(巡回診療を含む)
3. 後方病院との連携の円滑化
4. 行政の支援・協力の向上
5. その他 ( )
6. へき地医療に対する効果はない

**【保健福祉業務】**

問 14 診療活動以外に担当している保健福祉業務はありますか(複数回答可)。

1. 基本健康診査
2. がん検診
3. 乳幼児健診
4. 健康相談・健康教室
5. 予防接種
6. 老人福祉施設等の管理・嘱託医
7. 予防接種
8. 学校医
9. 老人福祉施設等の管理・嘱託医
10. その他 ( )

**【行政との関係】**

問 15 診療所の活動について、行政の支援・協力の体制はいかがですか。

1. 十分な支援・協力がある
2. 一応の支援・協力がある
3. あまり支援・協力が無い
4. わからない

問 16 保健福祉行政に診療所医師、歯科医師としての意見が反映されていますか。

1. 十分反映されている
2. 反映されている
3. あまり反映されない
4. 全く反映されない
5. わからない

**【生活状況】**

問 17 あなたの家族構成についてお答えください。

1. 独身
2. 家族と同居している
3. 単身赴任
4. 別居している家族がいる

問 18 あなたの住居についてお答えください。

1. 独立した専用医師住宅
2. 集合住宅の中での専用医師住宅(官舎)
3. 診療所近辺の借家
4. 診療所近辺の持ち家
5. 診療所地区外の自宅からの通勤  
(通勤時間 分、通勤手段:車・電車・船・その他( ))

**【へき地で困ったこと】**

問 19 へき地での診療で困った事例などがあればご回答ください。

1) 診療面 : 3つを選んで○をつけ、3つのうちもっとも重要と思われるものに◎をつけてください。

1. 常に居なくてはいけないという心理的圧力
2. 医療技術の研修ができない
3. 診療機器があれば転送する必要がなかった
4. 患者を紹介しても返事がなかった
5. 専門的な診療相談に応じられなかった
6. 患者を受け入れてもらえなかった
7. 自治体の理解が乏しい
8. 後任がない
9. 学位の研究ができない
10. スタッフとの人間関係
11. 学会へ参加できない
12. 行政と良好な関係を築けない
13. 首長と良好な信頼関係が築けない
14. その他 ( )

2) 生活面：3つを選んで○をつけ、3つのうちもっとも重要と思われるものに◎をつけてください。

- |                  |                    |                     |
|------------------|--------------------|---------------------|
| 1. 交通が不便である      | 2. 日常生活が不便である      | 3. 文化施設がない          |
| 4. 気象条件がきびしい     | 5. 自由な時間が持てない      | 6. 十分なこどもの教育ができない   |
| 7. 単身赴任を余儀なくされた  | 8. 冠婚葬祭に出席できなかった   | 9. 家族や自分の病気が心配      |
| 10. 親戚や友人と疎遠となった | 11. 深夜まで開いている商店がない | 12. 親のことが心配         |
| 13. 保育環境が不備      | 14. 地域の生活に馴染めない    | 15. 物価が高い           |
| 16. 地域に魅力がない     | 17. 充実した余暇を過ごせない   | 18. 家族が仕事をすることができない |
| 19. 住民に活気がない     | 20. 文化的に違和感がある     | 21. 住民からよそ者扱いされる    |
| 22. 方言が理解できない    |                    |                     |
| 23. その他 ( )      |                    |                     |

#### 【勤務を続けるための支援】

問 20 へき地診療所での勤務を続けるために必要なことは何ですか。

【3つを選んで○をつけ、3つのうちもっとも重要と思われるものに◎をつけてください。】

- |                     |                                       |                          |
|---------------------|---------------------------------------|--------------------------|
| 1. 生活環境(住宅環境)の向上    | 2. 子弟の教育の充実                           | 3. 診療支援体制の強化             |
| 4. 医師としての研修・生涯教育の充実 | 5. 報酬の充実                              | 6. 地元行政の理解と協力            |
| 7. 複数医師体制の確保        | 8. レジャーの確保                            | 9. 生活必需品の確保              |
| 10. 安定した身分          | 11. へき地医療拠点病院群を含めたネットワークの中での人事ローテーション |                          |
| 12. 最新医療機器の整備       | 13. 地域住民の理解と協力                        | 14. 都道府県やへき地医療支援機構の理解と協力 |
| 15. その他 ( )         |                                       |                          |

問 21 今後へき地医療活動に求められることは何ですか。

【3つを選んで○をつけ、3つのうちもっとも重要と思われるものに◎をつけてください。】

- |                         |                            |                 |
|-------------------------|----------------------------|-----------------|
| 1. 後方支援病院の役割強化          | 2. へき地医療支援機構の活動の強化         | 3. 国や県などの行政的指導力 |
| 4. 広域化による資源の有効利用        | 5. 総合的な診療や地域医療に関するマニュアルの確立 |                 |
| 6. 都道府県の自由な裁量によるへき地医療対策 | 7. 地域医療に関わる人材の育成、確保と教育の改善  |                 |
| 8. 保健福祉医療が一体となったまちづくり   |                            |                 |
| 9. その他 ( )              |                            |                 |

#### 【へき地勤務の理由】

問 22 あなたがへき地診療所に勤めている理由についてご記入ください。

【3つを選んで○をつけ、3つのうちもっともあてはまるものに◎をつけてください。】

- |                        |                      |                       |
|------------------------|----------------------|-----------------------|
| 1. やりがいがあるから           | 2. 働きやすいから(住民や職員がよい) | 3. 自然環境がよいから          |
| 4. 義務年限内(自治医科大学卒業生)だから | 5. 大学医局からの派遣         | 6. 近隣に両親、親しい人が住んでいるから |
| 7. 両親の跡を継いで            | 8. 報酬が良いから           | 9. 後任がないから            |
| 10. 近隣の病院からの派遣         |                      |                       |
| 11. その他 ( )            |                      |                       |

#### 【勤務の希望・予定】

問 23 現在、勤務されている施設での勤務についてお聞かせください。(3. 後任が見つかるまで または 4. 早く退職したい の場合は、問 23-1 にもご回答ください)

- |                 |                          |              |
|-----------------|--------------------------|--------------|
| 1. できるだけ長く勤務したい | 2. 任期が終了するまで             | 3. 後任が見つかるまで |
| 4. 早く退職したい      | 5. 退任後、一定期間が経過したら再び赴任したい |              |
| 6. その他 ( )      |                          |              |



## へき地医療拠点病院へのアンケート

A. 都道府県名： \_\_\_\_\_ B. 病院名： \_\_\_\_\_  
 C. 回答者のお名前・役職：お名前 \_\_\_\_\_ 職名 \_\_\_\_\_

## 【基本データ】

問1 貴病院の診療科は下記のどれですか（複数回答可）。

1. 内科      2. 外科      3. 小児科      4. 産婦人科      5. 眼科  
 6. 耳鼻いんこう科      7. 脳神経外科      8. 胸部外科      9. 整形外科  
 10. 皮膚科      11. 麻酔科      12. 精神科      14. 歯科  
 15. その他 ( \_\_\_\_\_ )

問2 貴病院の特徴のうち、あてはまるものに○をつけてください（複数回答可）。

1. 地域医療支援病院      2. 救急告示病院      3. 救命救急センター      4. がん診療拠点病院  
 5. 難病医療拠点病院      6. エイズ治療拠点病院      7. 医療機能評価機構認定病院  
 8. 特定機能病院  
 9. その他 ( \_\_\_\_\_ )

## 【へき地医療支援実績】

問3 貴病院が担当しているへき地医療支援の具体的内容と頻度についてご記入ください。

1. 非常勤医師（専門医・総合医）の定期派遣      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 2. 非常勤歯科医師の定期派遣      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 3. 代診医の派遣      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 4. 常勤医師の派遣調整（長期の派遣の調整）      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 5. その他の医療関係職種の派遣      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 6. へき地巡回診療      (年間： \_\_\_\_\_ 日)  
 7. 研修の受け入れ      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)  
 8. 画像伝送やテレビ会議等による遠隔診断・治療      (年間： \_\_\_\_\_ 日)  
 9. 定期的な症例検討会、研修会      (年間： \_\_\_\_\_ 日)  
 10. 紹介患者の受け入れ  
 11. 救急患者の受け入れ  
 12. 総合的な臨床医としての養成・指導の受け入れ      (年間： \_\_\_\_\_ 人・日)

問4 具体的に支援を行っているへき地診療所の名称と貴病院から車・船等での所要時間についてご記入ください。

名称	所要時間	分
(名称)	所要時間	分

問5 巡回診療を行っている無医地区の名称と貴病院から車・船等での所要時間についてご記入ください。

(名称	所要時間	分)

【へき地医療支援体制と方針】

問6 へき地医療支援の責任体制についてお答えください。

1. 院内でへき地医療支援のための責任者を決めて、院内の運営・調整をしている。
2. 特に責任者を決めていないが、院長、副院長、診療部長等が対応している。
3. 特に責任者を定める必要性がないので決めていない
4. その他 ( )

問7 貴病院のへき地医療支援に対する方針は院内で理解されていますか。

1. 事務職を含めた全ての職員が自院の立場・方針を知っている
2. 医師・歯科医師は全て自院の立場・方針を知っている
3. へき地医療を担当する医師・歯科医師は全て自院の立場・方針を知っている
4. 院内で自院の立場、方針について話題にしたことはほとんどない

問8 貴病院が行っているへき地医療支援の内容の評価は行われていますか。

1. へき地医療支援に関する経時的な統計等が把握され、問題点の抽出や解決策等の議論が記録されている
2. へき地医療支援に関する経時的な統計等が把握され、院内に報告されている
3. 特に評価等は行っていない
4. その他 ( )

問9 へき地医療支援に対する貴病院の立場でもっとも近いものをあげてください。

1. 積極的にやりたい
2. 院内に余裕があればやりたい
3. できれば行いたくない
4. 支援を行う余裕がない
5. その他 ( )

問10 現在行われているへき地医療支援は地域の必要をどの程度満たしていますか。

1. 十分満たしている
2. 満たしている
3. あまり満たしていない
4. まったく満たしていない

問11 今後、必要と考えるへき地支援は何ですか (複数回答可)。

1. 医師配置計画の策定
2. 代診医派遣
3. コメディカルスタッフの派遣
4. 歯科診療支援
5. へき地巡回診療
6. 研修の受け入れ
7. 画像転送やテレビ会議等の遠隔医療
8. 症例検討会・研修会の開催
9. 紹介患者の受け入れ調整
10. 総合的な臨床医の養成指導
11. その他 ( )